



公益社団法人北海道柔道整復師会
附属北海道柔道整復専門学校同窓会

第25号

発効日 令和7年4月1日
同窓会事務局
公益社団法人 北海道柔道整復師会
附属北海道柔道整復専門学校
〒060-0042 札幌市中央区大通西18丁目
電話 011 (642) 0731
FAX 011 (642) 8455

同窓会会報

令和6年度 北柔専校同窓会総会・特別講演会 報告

令和6年4月21日(日) 10時より北整会館4階講堂でご来賓をお迎えして総会が行われ、決算報告を含めた提出議案はすべて承認され終了いたしました。

続いて、10時30分より 特別講演会として、2名の講師にご講演をいただきました。

第1席は、北柔専校教務次長である 野崎 享先生による「整骨院の訪れた“まれ”な疾患」と題してご講演いただきました。

筋骨格系の痛みで来院した患者様が、結果的に多発性骨髄腫や転移癌であった例や、腕神経叢麻痺・皮下出血斑がみられたPCL断裂・掌蹠膿疱症性骨関節炎の症例、めまい時のエプリー法等について自身の経験を踏まえたうえで、医科へのスムーズな橋渡しをするために医学知識を正しく使う重要性を述べられ講義は終了いたしました。

第2席は、一昨年ご逝去されました本同窓会副会長佐々木辰雄先生のご子息様である、北大病院小児科 循環器グループ 医学博士 佐々木 大輔先生による、「北海道の小児医療」と題してご講演いただきました。

北海道には大学小児科関連病院が26ヶ所ありますが、北海道の総人口が年々減少しているためここ25年で4割減少しています。今後も更なる出生数の減少と医療機関の働き方改革等により減少する可能性があります。

小児医療に必要なこととして、小児は自ら意思を伝えられないことや、疾患が多岐にわたること、さらに発育発達の各ステージに合った対応をする必要があるため、小児外科・産婦人科・保育士・心理士・教師などの多くの職種と密接な協力が必要です。

北大小児科の内科疾患の担当の種類としては、免疫班・血液葉班神経班・腎臓班・内分泌班・循環器班・新生児班・PICU班があります。救急疾患は平日の時間外の搬送が最も多くて、なかでも熱性痙攣が多い疾患です。熱性痙攣は原因不明で生後10ヶ月～3歳頃に起こりやすく頻度は日本で7～8%、家族歴がある場合50%程度、時間帯は熱がでて24時間以内に発症しやすく全身性痙攣であり持続時間は数分～10分程度です。

近年、新薬の開発が進歩し脊髄性筋萎縮症(SMA)の薬としてゾルンゲマ・スピラザ、心不全治療として「ファンタスティック4」と呼ばれる薬があります。

出生前診断としての胎児心エコーのメリットとしては、出生前に先天性疾患を診断することで出生後の治療の計画を立てることができ救命率も上がります。と述べられ、貴重な講義が終了いたしました。

(報告 古川 喬夫)



当瀬 規嗣 校長



野崎 享 先生



佐々木 大輔 先生

～ ご挨拶 ～

北海道柔道整復専門学校
同窓会 会長 筒井 寛幸



日頃より同窓会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げます。

北柔専同窓会会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

昨年の本会報のご挨拶でも触れましたが能登半島地震によって大変な被害にあわれた方々が、同年9月の豪雨によってさらなる被害にあわれました。被災された方々お気持ちを自身に置き換えたときに、これから生活を立て直す気力が出る自信がありません。災害で亡くなられた方や被災された方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、少しでも早く心身ともに穏やかな生活を送る日が来ることを祈ります。

昨年度の同窓会の活動といたしましては、コロナ禍があけて小規模ながらも学校の行事が行われるようになりました。入学者がいなかったことにより会費収入がありませんでしたが、少しでも在校生を支援するというスタンスの元に工夫をしながら繰越金からの支出を行いました。

そして残念ながらではありますが、北柔専校の閉校が決定してしまいました。今後の同窓会のあり方も色々な方と話し合いをしたうえで方向が決まっていくものと思っておりますが、会員の皆様には本年の同窓会総会にご出席いただき、ご意見をいただけるとありがたいと思っております。

そして、総会後の特別講演会は昨年同様に、北柔専校の卒業教育講演会との共催という形で開催いたします。概要は別紙のとおりですので、是非、先輩や同期生、または後輩とお誘いあわせのうえで、ご参加いただき、教員や同窓生同志が旧交をあたためる場となりますことを心より願っております。

最後に、会員皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げまして、同窓会会報発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和5年度事業報告（令和6年総会において報告済）

令和5年	4月9日(日)	北柔専校入学式	会長出席
	16日(日)	同窓会総会・特別講演会	中止
	5月25日(木)	北柔専校球技大会	
	9月15日(金)	三役会	ZOOM
令和6年	11月28日(火)	三役会	ZOOM
	3月6日(水)	三役会	ZOOM
	9日(土)	北柔専校卒業式	会長出席
	3月19日(火)	役員会	

令和6年度新入会員の紹介

令和6年3月9日（土）開催の北柔専校卒業式を終えて、新たに20名の会員を迎えることとなりましたので、ここにご紹介いたします。

同窓会会員一同、新入会員皆様のご活躍をお祈りいたします。



北柔専校から



ご挨拶

北海道柔道整復専門学校
副校長 池田 由

北海道柔道整復専門学校同窓生の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。令和5年5月より副校長を拝命しました池田でございます、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最近の学校の動静についてですが、令和6年3月末で加藤校長がご退職され、4月より校長には當瀬先生にご就任いただきました。新校長となられました當瀬先生におかれましては大変お忙しい中、また本学にとって大変難しい時期に学校長をお引き受け頂きましたこと感謝申し上げます。また、10年にわたり校長職を務めていただきました加藤先生には、改めて御礼申し上げます。

北海道柔道整復専門学校の今後の運営についてですが、令和5年の年末の北整の理事会で入学希望者の減少により令和6年度の新入学生の受け入れの中止を決定し、令和6年度の北整総会におきまして在校生が卒業する令和8年3月をもって閉校する決議がされました。原因としては数年前より入学生の減少が続き、学校の収支も大変厳しい状態が続いておりました。卒業生の一人として、また北整の執行部の一人として、この結果は大変残念なものでしたが諸般の事情を考慮し苦渋の決断となりました。また、令和7年1月現在においては、北柔専校の事業継承を考えている事業者とも話し合いを進めている所でもあります。

北整附属の学校でもありますので、在校生の皆さんが本来の目的である「柔道整復師」の資格が取得できるように環境を含めて北整の理事の一人としてしっかりと対応して参りたいと思います。足りないところや不十分な面もあろうかとは思いますが、学校の教職員の並々ならぬ努力と知恵で在校生の皆さんに最高の結果を出していただけるよう努力とバックアップに務めて参ります。

昨年の北柔専同窓会総会と卒後教育講演会の共催に続き、今年の4月にも同様の形で開催されます。同窓生の皆様にお会いできることを大変楽しみにしております。

～ 在校生 ～



「3年間を振り返って」

3年生 自治会長 伊藤 賢生

今年度から対面授業が再開され、クラスメイトと直接顔を合わせながら学ぶ機会が増えました。その中で、仲間とともに学び合う楽しさや、大切な時間を共有できる喜びを改めて感じることができました。授業以外では、運動会や高等学校柔道選手権大会への参加、接骨院での実習など、さまざまな活動を通じて多くの経験を積みました。

特に、課外活動の「サッポロさとらんど」での懇親会では、先生方から学問の枠を超えた人生の知恵や貴重なお話を伺うことができ、一生忘れられない思い出となりました。

学業においては、入学当初こそ医学的な用語に戸惑い、慣れない環境に苦勞することも多くありました。しかし、クラス全員で一丸となって努力を続けた結果、3年次には全員が実技審査に合格することができました。審査に向けての放課後の練習では、お互いに励まし合いながら技術を磨き、成長していく中で、クラス全体が一つにまとまっていくのを感じました。

この経験は私たちにとって大きな財産であり、今後この力を生かして、多くの方々を支えられる存在になりたいと心から願っています。

本校の卒業生には尊敬すべき素晴らしい先輩方が多くいらっしゃいます。その先輩方に憧れるだけでなく、いつかその背中を超えられるよう、さらなる努力を重ねていきたいと思っております。

これまでご指導いただいた先生方、そして支えてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。3年間、本当にありがとうございました。

— 「学校だより」を作成いたしました。 —

右のQRコードをスマートフォンで読み込み、ご覧ください。

URL http://jusei.or.jp/tech/?page_id=3437



※QRコードを読み取れない場合は、上記URLに直接アクセスお願いいたします。

北海道柔道整復専門学校
教務部

行事スナップ



令和5年度 卒業式



令和5年度 卒業式



解剖見学



課外活動



球技大会



産学連携講座



モルック大会



北整学会



介護予防教室

編集後記

毎日の晩酌が「アルコール消毒」となっているのか、風邪もひかずに済んでいる今日この頃です。しかし年齢による体力の衰えは否めず、雪かきの際に何かにつけてつい口から出てしまう「ヨイショ」の声を聴いた隣家の奥さんに、「センセ頑張って！」と励まされつつ雪と格闘しています。春が待ち遠しいですね。

発行責任者 筒井 寛幸